1 改正「給特法」に伴う、勤務時間の上限 に関する指針を遵守してください

(1)在校時間の把握については ICT 等を活用し客観的に把握するとともに、公文書としての管理・保全を期すること。(改正給特法に対する附帯決議) (2)超過勤務上限 月45時間、年間360時間

組 正確な在校時間の把握をしてほしい。

- 委 校務支援システムを利用した勤務時間管理を 来年度より実施する。それまではエクセルでの 管理で対応する。
- 組 情報公開で出退校記録を確認したところ、ほとんどの学校が休憩が取れている計算だった。 休憩が取れなかったら7時間45分を引いて計算 することは以前からも申し入れているし、県から も言われている。是正していただきたい。
- 委 校長会では正しく記録するように依頼しているが、記録用のエクセルシートの様式を修正する必要がある。
- 組 1日に45分の勤務時間が加算されると、6月ならば16時間30分が超過勤務に上積みされ、100時間越え、80時間越えの先生が増す。

99時間台の超過勤務者が多い学校は時間を調整している疑惑が生じる。また、朝早過ぎる出勤者もいる。勤務前でも勤務後でも超過勤務は同じ。常識的な勤務管理をお願いしたい。校長のマネジメントも問われる。県からの通知(平成30年)を新しい校長は知らないかもしれない。その通知を見せて指導していただきたい。

2 上限を遵守するために何を見直すか

- 組 知教労は、全ての小学校で部活を廃止、当面 中学校の朝部活は全て中止を求めるが、いかが。
- 委 小学校は、町の社会教育の体制が十分でない ため考えにくい。社会教育に移行する道筋を探っていくことは必要だが今すぐは難しい。中学 校の朝部活は今年度はコロナでなし。先生方に も賛成反対両論有り。適切な在り方を探ってい く。
- 組 先生達がやりたいと言ってもやめろというのが 教委の立場だ。学校長もさることながら教委主 導でやってほしい。
- 委 将来的に統合を考えているので、そのときには何とかしたいし、今現在でもできるところから改善していきたい。先生達の思いもあるが部活動はできるだけ改善していきたい。
- 組 県のガイドラインがありそれに沿っているはず だ。その中でも朝練は原則としてやらないと言っ

ているのでそれを示し考え方を変えていく。

- 委 コロナ禍で自分たちの生活を見直すきっかけ になった。また働きかけていきたい。
- 委 閉庁に関しては昨年度から1週間程度実施し、その間は留守番電話を設置している。今年も夏季休業期間が短い中ではあったが実施した。電話に留守番機能はあるが平常は設定してない。南知多の現状では夜間に電話をもらうことはまずない。
- 組 一定の時間外は学校は閉っているという意識 改革にもつながる。近い将来は必要だ。
- 委 学校の明かりがついているのに、電話をかけても出ないとなると地域からの信頼を失う。
- 組 実施している自治体では前もって留守番電話 の設置を保護者に周知してからやっているので、 苦情はほぼないと思われる。
- 組 教員も家庭があり、文科省も県も言っている。 教員は決して冷たくないとアナウンスしていく のも教委の役目。地元の人の理解につながる。
- 組 読書感想文や応募作品は学校で集約すること は今年は少なくなったが、コロナ後もそうしてほ しい。審査員も主催者で。
- 委 集約については今年はなかった。希望者の意欲をそがないように中止にはしなかった。審査についても精選していく必要がある。役場内部のものなどは学校では審査をしていない。外部からの新規の応募は精選はしてきている。
- 組 行政がやれば動く。外部団体が応募を持ってきたときには、教委で止めることで変わる。 コロナの関係で、なくてもすむものがよく分かった。そういうものから切っていくのも一つだ。
- 委 いろいろなチャンスととらえ、検討していく。
- 組 「知多の友」「数学のリープ」「若あゆ日記」 など外部団体が発行している副読本や冊子づく りに、授業をさしおいて出張して作るというのは やめるべきだ。出張に行かせるのは校長の権限。 今年はそんなことをやっている余裕はない。今 後もやめるべきだ。
- 委 教員の方の研鑽になっているのでは。
- 組 あまり使わないものもある。見直すチャンス。 授業で忙しいのに出張でつくるのはおかしい。 また、買うという前提で編集している。子どもた ちが来る前から冊数を聞いていて、教材の選定 方法もおかしい。必要ならば市販のものでよい。 本当に必要なのかを現場の先生に聞いてほしい。 なくてもよいと言う声をよく聞く。

出張をやめると言うのも軽減策の一つだ。

組 公費で買うものは何か

- 委 「知多の友」「数学のリープ」は公費。「明 るい人生」「明るい心」「中学生活と進路」は 学級配付として公費。
- 組 公費になれば必ず買うということ。それは編集 ・出張があるということ。「知多の友」「数学のリ ープ」は公費をやめてほしい。
- 組 職場体験は今年はなく、なくても問題ない。 来年度以降も町として引き受けない選択肢を。 南知多では地域の期待もあるという話を去年も 聞いたが家の手伝いをするという方向で。
- 組 キャリアパスパートの進捗状況はいかが。
- **委** 今は特に検討課題に挙がっていない
- 組 文科省が例示を出した。かなりの量があるものだが、「地域や学校の実情に応じて様式を」 という一文がある。最低限にしていただきたい。
- 組 校務分掌は小さい学校はいくつも兼ねて大変。 部会や研究授業の数を減らすなど見直すよう知 教協で検討を。

学校訪問は、毎年の形でなくてもよい。縮小するよう検討してほしい。

- 要 南知多町では今年は、学校巡回として1校あ たり2~3時間、5地区に分れて基本1日で1 地区の訪問をした。指導案はなし。現職教育や 初任者研修と兼ねて行なう学校もあった。終わ った後で、可能ならば児童生徒の下校後集まっ て全体会を行ない、学校の様子も聞き、話しも した。できるだけ早く帰ることを目指し、生活 を大事にすること、ワークライフバランスを取 ることを伝えた。
- 組 通常の授業を見ていくような巡回ならばいつ でもよい。設備の要望も気軽にできる。昔なが らの学校訪問は変えていくべきだ。
- 委 検討はしていきたいが、「学校訪問」は続けていきたい。授業を見る以外にも、先生達に直接話しかけていくチャンスだ。全体会議という形はやりたいと考えている。
- 組 現状をそのままにして早く帰るようにと言われ ても帰れない。これこれを減らすから早く帰れと いうようにしないと帰れない。具体的な指示を。

3 統廃合問題の進捗状況について

委 基本計画(案)を作成している。住民説明会を 11 月7・8日に小学校と中学校に分けて開き、保護者や地区の方に説明をする。必要ならば修正して 11 月に計画(案)を決定する予定。その後議会にかける。

基本計画案では、大井小と師崎小では今後も 児童数が1桁になる学年がいくつかあり、保護 者の切実な声もあるので令和4年に統合を目指している。中学校についても学年の人数も少なく、今後も減少という見込みなので統合していく方針。中学校の具体的な統合の形や時期は基本計画には記載してない。今後、意見を聞きながら決めていくという形である。

【経過】

- ・去年7月に全保護者や教員からアンケート。
- ・それを基に 10 月 11 月に5地区で住民意見交換会を開催。
- ・年をまたいで師崎・日間賀・篠島地区で PTA の役員会に行って意見交換を行なう。(住民意見交換会では、保護者の方から意見をもっと聞いてほしいとの声があったので)
- ・それらを基にして今年度になってから学校規模について考える懇談会を5回開催し、各地区の区長代表・中学校、小学校、保育所のPTAの代表の方の意見を聞く。
- ・その懇談会の意見をまとめたものを持ち寄り、各地区で保 護者意見交換会を開く。
- 委 懇談会の経過途中では小学校の統合先は師崎中学校でという意見もあったが、小中は別に考えることとなり、基本計画案を作った。HPには、今までの懇談会の流れや議事録はすべて載っている

将来的には学校を新しいものにする必要はあるが、すぐには難しいので既存の学校を利用したい。

去年生まれた子が町全体で 60 数人。学校再編が必要であるが、各地区に歴史も文化もあるので小学校は残して5小に。中学校は1中を目標にしているが早急には難しい。大井小と師崎小については、令和4年4月を目標にしてきた。各地区の保護者と意見交換をする中で、中学校はもう少し協議する時間がほしいと言う声を多く聞いたので、延ばした。今回反省をしているのは情報発信しているつもりだったが、必ずしも保護者全員に浸透していなかったということ。もう少し時間を取って意見を聞きながら進める。

小中一貫校にしてほしいという声もある。ただ、複数の学級があるところならよいが、単学級しかないところで小中一貫校では9年間同じ人間関係で過ごすのでそういう小中一貫校の考えはない。

- 組 山海小が廃校になったときに、地域がどのように変わっていったかという検証はしたのか。
- 委 1年後の保護者のアンケートで統合して良かったという声が多かったと聞いている。

4 その他

- 組 特別教室のエアコンは難しいところか。
- 委 統合が進んでいけば移設して、特別教室にも 設置していきたいと前向きに考えている。

(以上)